

災害時要援護者避難支援ハンドブックの策定にあたって

近年、東日本大震災や熊本広域大水害のような大規模な災害が発生し、地域で助けあうことの大切さが改めて見直されています。中でも、高齢の方や障がいのある方など、情報の入手や理解に困難があったり、避難やその準備等においてサポートを必要とする方に対する支援をどのように行っていくかが課題となっています。

災害時に弱い立場に立たされる方の安全を守るためには、日頃から地域において要援護者と避難支援者が交流し、要援護者の所在や状況を把握し、相手の立場になって避難方法等について検討しておくことが必要です。

本ハンドブックは、地域の皆さんが支援活動を実践していくうえで参考となるような事項を記載しました。災害の種類は様々で発生状況により支援の方法も変わってきますが、本ハンドブックを参考に、いざという時に迅速かつ的確な行動を起こせるよう、地域での交流を大切にしながら支援方法を十分検討し、支援活動の実践につなげていただきたいと思います。

また、本ハンドブックは、主にそれぞれの地域における避難支援者向けの研修会等での活用を想定していますが、各市町村の実情に応じて適宜修正を加え市町村版を作成する場合にもご利用ください。

この冊子が地域での取組を始めるきっかけとなれば幸いです。



© 2010 熊本県くまモン

目次

1 はじめに	1
(1) 災害時要援護者とは	
(2) 避難支援者とは	
(3) 地域の皆さんができる支援	
(4) 支援のしくみ	
2 避難支援の流れ	5
(1) 支援者の行動(風雨が強まってきた時の例)	
(2) 避難に関する情報	
(3) 避難場所	
3 災害時の避難支援のポイント	9
・高齢の方(ひとり暮らし・高齢者のみの世帯、寝たきりの方、認知症の方)	
・車いすを利用している方・手や足などに障がいのある方	
・視覚障がいのある方	
・聴覚・言語機能障がい等のある方	
・内部障がいのある方・難病の方	
・重症心身障がいのある方	
・知的障がい・発達障がいのある方	
・精神障がいのある方	
・乳幼児・妊産婦のいる世帯	
・外国の方(Foreign people)	
4 地域における平時の支援活動	16
《ステップ1》隣近所の積極的な交流	
《ステップ2》自主防災の地域組織づくり	
《ステップ3》活動内容の検討	
《ステップ4》要援護者情報の把握	
《ステップ5》避難支援に必要な情報の共有	
《ステップ6》支援者の決定	
《ステップ7》要援護者も参加する避難訓練の実施	
《ステップ8》関係機関とのネットワークによる重層的な支援	
5 Q&A	21
資料	
1 防災情報の収集	23
2 住まいの安全対策	25
3 非常用品の用意	27
4 防災カードの作成	29
5 ワークシートの作成	30
トピックス	
①災害から身を守る(熊本の災害)	4
②災害が起こる前に	7
③避難後の安否確認のために	8
④過去の体験に学ぶ	8
⑤身近なものを利用して搬送する	15